

売上高初の300億円超

イフジ産業 液卵販売数量は過去最高

イフジ産業(株) (藤井宗徳社長) 本社・福岡県粕屋町) は5月7日、2026年3月期連結決算を発表した。液卵販売数量の増加や鶏卵相場の高値推移を背景に、売上高は前期比27・4%増の325億7200万円となり、5期連続の増収で過去最高を更新。連結売上高として初めて300億円を超えた。

一方、積極的な設備投資に伴う減価償却費の増加などから、営業利益は6・9%減の27億9000万円、経常利益は6・

3%減の28億5700万円、親会社株主に帰属する当期純利益は4・7%減の20億300万円となった。

1株当たり期末配当は前期比5円減配の35円(年間配当は1円増配の67円)とした。

主力の液卵事業では、25年10月以降に全国で高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)が多発した影響で鶏卵の供給不足が続き、鶏卵相場が高値で推移した。この中で、国内外での原料卵調達力と液卵供給力を強みに受注

を拡大。他社からのOEM受注や外食・総菜向け販売も増え、液卵販売数量は2・1%増の6万6600トと過去最高を更新した。

液卵事業の売上高は、液卵販売数量の増加や販売単価上昇などにより28・7%増の304億8200万円。うち液卵売上高は30・3%増の287億1700万円、加工品売上高は8・4%増の14億8000万円となった。

一方、利益面では、2030年度に液卵販売数量8万ト、業界シェア20%を目指す成長戦略のもと、全工場で積極的な設備投資を進めたことから

調味料事業は既存得意先向け販売の減少などで売上高が5・6%減の12億6700万円、セグメント利益が1・7%減の8900万円。オーガニックEC事業は冷凍フルーツ販売が好調で売上高

減価償却費が増加。人的資本投資の強化に伴う人件費増加もあり、液卵事業のセグメント利益は7・3%減の26億9500万円となった。

27年3月期の連結業績予想は、売上高333億7600万円、営業利益29億1300万円、経常利益28億8700万円、親会社株主に帰属する当期純利益20億2400万円を見込む。年間配当予想は2円増配の69円とした。

が8億7700万円、セグメント利益が500万円となった。